

前回の提案授業は説明文でしたが、今回は物語文が教材です。教科書「世界でいちばんやかましい音」にある「言葉の力」には、「物語の山場を考える」とあります。山場とは・・・「物語の中で、いちばん大きな変化のあるところ。山場での変化は中心となる人物に関わるものであることが多い。」と書いてありました。そのことから、身に付けさせたい資質・能力は「山場を捉える力」なのかと思っていました。しかし、新CSを読むと「山場」に関するところがありません。指導案を作成するにあたって「身に付けさせたい資質・能力」を明確にすることが大切なのは分かっていますが、ここが悩むところでもあるのだと改めて感じました。そこで、資質・能力を3本柱で整理して記述するように指導案の型式を改善することにしました。次の国語科の研究授業から変えていく予定です。

単元名：「物語の山場をとらえよう～山場カンファレンス～」

教材名：「世界でいちばんやかましい音」(東京書籍5年)

提案授業：5年1組 池谷 康史 教諭

身に付けさせたい資質・能力：人物像や物語の全体像を具体的に想像する力

学習の流れ

5年生 「世界でいちばんやかましい音」 学習の流れ (7時間)

物語の山場をとらえ、「山場カンファレンス」を開こう。

- 1 学習のねらいをつかみ、力をつけるための学習計画を立てよう。
- 2 物語の構成を知る。
山場を見つけよう。
- 3 までに起こる出来事について読み取ろう。
- 4 どうして は変わったのだろうか。
- 5 大きく変わったのは、 だけだろうか。
- 6 「山場カンファレンス」を開き、交流しよう。
- 7 単元を振り返ろう。

物語の構成をとらえ、山場で起きた変化について考える力

本時の板書 3/7時

授業者より【研究協議】

- ・本時では、山場が盛り上がる理由(物語のおもしろさ)を比較することで捉えさせたかった。ブロックで行った事前研では、比較しなくても物語のおもしろさは分かるのではないかという意見もあったが、収束していくのが難しいのではないかと考え、ポイントを絞って「思考スキル」を使って比較することにした。
- ・本時のグループ・全体での対話の場面で、教師対児童のやりとりになってしまい深まりが得られなかった。

【リフレクションシート】

資 山場を捉えることはあくまでも物語を読む視点の1つとして押さえ、身に付けさせたい力(今回であれば、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の工夫を考えたりする力)を教師が明確にしなければならない。身に付けさせたい力は何なのか、まずその押さえをした上で単元の計画を考えるようにしたい。

主対深 児童が問いを持つことができる発問の工夫を心がけていきたい。

見 言葉による見方・考え方をどこで働かせるのかまたどのように働かせるのか意識して授業づくりに努めていきたい。

4/7時

5/7時

考え、深める方法(思考スキル) 5年生用

- 見通す
- 推論する
- 比較する
- 順序立てる
- 分類する
- 焦点を絞る
- 変化をとらえる
- 要約する
- 当てはめる
- 多面的に見る
- 分析する
- まとめ・表現する

どの板書にも「思考スキル」の短冊が貼られていて、この単元で池谷先生が意図的に使って「考える国語」の実践していることが分かります。何度も使っていくうちに、児童が自然と「使いたくなる」「使える」力として身に付くと思います。3学期の5年1組をもう1度見たいです。

研究協議より(抜粋)

- ・育成すべき「資質・能力」を付けるために最適な言語活動であるか。
- ゴールは山場の交流会。これまでに学習した物語文「かさこじぞう」「ごんぎつね」「サーカスのライオン」「走れ」の山場について友だちとの共通点や相違点等の交流を行う。→適用問題的に扱うことができる。第2次で付けた力を第3次で試すことができる。
- ・本時の目標が達成できたか。
- ▼子どもたちは、山場を感じていない。山場の意味が分かっていたらどうか。
- ▼「盛り上がり」につながるように、「どこが面白い?」と問うことで構成や表現の工夫に気付かせることができたのではないか。
- ▼面白さは、比較することでは捉えられなかった。何と何を比べるのか、なぜ比べるのか比べる目的がはっきりしなかった。めあても改善する必要がある。
- ・言葉による見方・考え方を働かせた児童の姿は見られたか。
- ▼めあての中に「見方・考え方」の視点を入れていくことが大切。

指導主事より

- ・「山場」は作者が物語を面白くするための表現の工夫の1つであり、物語を読み味うための観点の1つとして身に付けること。1時間目の導入での「身に付いている力」に加算させる力である。
- ・指導案を作成する際、付けたい力と本時の目標と評価規準があっているかに気を付けること。
- ・めあては、「この話をおもしろくしているしかけを見つけよう。」はどうか。既習のことから、物語の構成や効果的な表現など面白くしている仕掛けを各々が見つけ交流させるとよい。
- ・第3次で既習の教科書の物語文を使う良さ→誰もが知っている共通の物語であることや前学年とは違った読み方ができること。

昨年度は本校以外での研修で不在でしたが、本校の在籍年数が一番長く、国語科の研究の流れをよく掌握されている池谷先生に研究授業をしていただきました。ブロック研で昨年度の実践を大野先生が紹介してくれましたが、今まで通りではなく、進化させようと池谷先生はチャレンジしてくださいました。校長先生のミッションにあった「チャレンジのないところに、喜びも悔しさも充実感もない。」という言葉を直に実践にうつしてくれました。チャレンジャー池谷先生、提案性のある授業ありがとうございました。また、高学年ブロックの先生方、6月には2つの国語科の研究授業があります。このチームワークで次回もどんどん研究を深めてください。

木曜日の6時間目は、3年生の算数科の授業です。宮川先生よろしくお願います!